

関東整形外科学会幹事各位

先週末に関東整形災害外科学会月例会第 684 回整形外科集談会 東京地方会が開催され、東京大学から当番校を委嘱された帝京大学が担当させていただきました。
万全の準備を進めて学会に臨みましたが、当番校にあるまじき大変な不手際があったことをご報告申しあげるとともにお詫び申しあげる次第です。

26 演題という 2 月の会にしては大変多くの演題のご応募をいただき、東京医科歯科大学の大川淳教授、防衛医大の尼子雅敏先生、日本医大の北川泰之先生、そして帝京大学の伊藤正明の 4 名の審査委員による優秀発表演題賞の審査が行われた結果、幹事校でありながら当科からの 2 演題が選ばれ表彰を受けるという栄誉を賜ったと感じました。

しかし、表彰後に優秀発表演題賞の規定である「関東整災誌に投稿する」ことについて、演者の渡部一之から、該当演題はすでに日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) 学会誌に投稿済みであるという申し入れがありました。従って該当演題はそもそも選考対象ではなかったこととなります。私自身が該当演題は教室内の症例検討会で発表しただけという認識であり、教室を主宰する者として管理不行き届きの謗りは免れないと責任を痛感しております。

学会事務局と相談し、今回の受賞を返上させていただき、次点の日本大学整形外科 小山翔平先生の「銃創により胸髄不全損傷を生じた 1 例」を繰り上げて本会の優秀発表演題とさせていただくこととしました。

小山翔平先生には最後まで残っていただいたにも関わらず、正当な表彰の機会がなかったことを深くお詫びいたします。また、お忙しい中、長時間にわたり厳正な審査をしていただいた審査員の諸先生方、そして学会にご協力いただいた全ての先生方に今回の私共の不手際について伏してお詫び申し上げます。

帝京大学整形外科
河野博隆